

平成13年6月28日～14年3月12日議員定数等調査特別委員会 8月7日

(鈴木和夫 君) 済みません、お昼にかかりますが、よろしくお願ひしたいと思います。

私の方からは、いろんな論議につきましては、きょうの御質問を受けた上で論議したいと思っておりますので、ちょっとわからん点がありますので、御質問申し上げたいと思います。

自民党さんからお出しになった提言書の具体的な各論で、時間もありませんので御質問したいんですが、六ページの提言について四項目ありますが、その三番目特別委員会、この委員会において、議員定数問題に関する府議会でのさまざま意見について、必要に応じ学識経験者など第三者の意見を聴取または諮問をし、答申を得る対応をすると、こういうふうには提言なさっているんですが、具体的にどういうふうなスケジュールでどういうふうにご考へておられるのか、もしよければお答へ願ひしたいと思います。

(松室猛 君) 現時点におきまして、このスケジュールを具体には考へておりません。書いてございますとおり、必要に応じてそういう第三者のお知恵もいただくというふうな提案というふうにご理解いただきたいと思います。

(鈴木和夫 君) 解釈するとしましたら、各党の意見がまとまらなかった場合は、そういう形で第三者にゆだねてやるというお考へでもないわけですか。その辺ちょっとよくわからない。

(松室猛 君) それも含めてです。私どもは、きょうの代表者会議でも簡単に申し上げたのでありますけれども、少なくとも私どもの党としましては、我が党の見解にこだわり続けるつもりはありません。何とか府民に納得していただけるようなものをつくり上げるための譲歩はもとより考へていますし、公明党さんもそういう御意向であることは文中にもあらわれておりますし、民主さんもそうだというふうにご考へております。

ですから、私は、この議論を通じて、第三者機関にゆだねるまでもなく合意が得られるとするならば、その必要はないだろう。ですから、具体的なスケジュールは考へていません。どないもこないもならん場合は、そういう方法も一つの方法じゃないかということでございます。

(鈴木和夫 君) そうしますと、四番が大分こだわったんですけどね、四番の方に、この委員会で納得できる対応がとられない場合は、来年二月議会で自民党さん独自で条例案を出すというふうにありますけれども、今のお話からすると、できるだけ各党の意見を集約しながら合意できるものは合意した段階でいくと、こういう解釈でいいんですね。

(松室猛 君) そのとおりでございます。

この四番の趣旨は - - 趣旨と言ったらおかしいですけども、出てきました経緯は、ここに資料として添付してございますけれども、従来の議員定数の検討委員会の申し合わせが、私は、何の意味も持たない形だけの委員会だというふうにご評価してなかったわけですね。そういう流れがずっとありますから、多数決でやらないんだと、満場一致でやるんだと。それぞれの思いがある定数に関して満場一致が可能だろうか。この言い方は、宮原さんに大変おしかりを受けるかわからんですけど、共産党とこの三党とは若干スタンスが違いますわな。ですから、これ全会一致ということをお前提にしましたら、こんな議論を何ぼしたって意味ないですよ。議論するだけのお遊びに終わりますよ。

だから、私は、従来の全会一致をお前提とするという委員会では何の意味もない、だから新しい委員会をつくる。その場合、やっぱりどうしようもないということであるならば、我々はかく信ずということをお示しする必要があるんじゃないかと。そのことは、願わくは避けたい。せつかくの委員会、特別委員会できたわけですから、ここでコンセンサスを御得て、お互いに譲り合い、府民の納得の御できるものができることを望んでおります。

(鈴木和夫 君) わかりました。私どもも、今回のこの委員会で定数削減については積極的に取り組みたいという思いでありますので、その辺については御理解させていただきたいと思います。

それで、特に今回の自民党案で一番やっぱり問題があるのが、昼間人口の考へ方なんですけれども、このこと

について詳しく御説明をお伺いしたいんです。

その前に、昼間人口と同じく面積要件をおっしゃっているんですが、もう一つ、定住外国人の関係もやはり考えなきゃならないのかなというふうに思います。参政権を付与するということは別にして、例えば生野区なんかでも数万人の定住外国人がいてるわけですから、この辺をどういうふうに考えておられるのか。これには若干触れておられましたけれども、結論が出てませんでしたので、もしお考えあるのであればどういう御意見なのか、お聞かせ願いたいと思います。

（松室猛 君） 現行、府議会議員の定数を考える段階におきまして、定住外国人の参政権につきましては一切検討いたしておりません。これは、まだ府議会として具体的な対応をするのは時期尚早であろうというのが、その根拠でございます。明確な国の方の方針が示されない段階において、我が府議会だけが先行して対応することは適切でないと思うからでございます。

（鈴木和夫 君） それで、先に昼間人口の面で……。昼間人口と同じく面積要件が詳しく入ってたんですが、特に私気になりましたのは、十二ページを見ますと、面積要件で大きいのが、泉佐野市が議員一人当たりにつきましても特筆して大きな面積、千二百二十五という形になってまして、自民党さん案のこの表を見る限り、昼間人口のことについてはよく理解できるんですが、面積要件については余りこの表に対しては付加されてないのと違うかという印象を受けるんですけども。

（松室猛 君） おっしゃるとおりでございます。昼間人口、面積要件につきましても、我々はかなりシビアに検討はいたしました。今回の我が党の見解をまとめる時点では、そのことをさほど組み込んだものになっていないことは事実でございます。これは、やっぱり今後の検討課題であろうと。

現行法制からしますと、人口要件だけでして、それも登録人口要件だけですから、これだけで議員定数を決めてしまってもいいんじゃないかということ、なぜこれを考慮しないんだと。法的にも、特別の事情のある場合、特別の事情とは何かということに対する規定はありませんけれども、検討の余地は裁量の余地で残されているわけですね。

ですから、これも、単に人口だけをもって配当基数に対するパーセンテージを云々するだけでいいのかなという疑問を疑問として問題提起させていただいたということでございますので、御理解いただきたいと思います。

（鈴木和夫 君） それから昼間人口の件で、十一ページに昼間人口の表があるんですが、中央区と北区がやはり昼間人口が一番多いという、中央区が特筆してこんだけのデータ出ているんですけども、昼間人口を定数の部分で勘案するということになってくると、昼間人口の人たちの意思表示をどうとるのかなというその辺の、特にこの配当基数についてもすべて住民票を置いている夜間の数で算出しているわけですから、昼間人口を加味するという改正にしてしまうと、全国的にどこもないわけですよ、昼間人口を加味した定数を考えているというのは。

先ほど中川委員の方から話がありましたけれども、これをすることによって一票格差は、全国的なレベルからいうと広がるという、この辺が全般的に理解されるのかなということをお尋ねしたいと思うんですけども。

（松室猛 君） 今の昼間人口のあれをどう配慮するかということですけども、我々は、検討しました結果、定数には反映しておりませんが、もし我々がこの問題を定数に具体的に反映するとするならば、配当基数の非常に悩ましい、小数点以下の数字なんかでどちらを選択すべきかというときなんかは当然 - - 当然と言うのはおかしいですけども、第一義的に昼間人口等を要件としてオンすべきだろうと。そういうことから、昼間人口あるいは面積要件でも考えたわけでございます。

ところが、当該区に関しましては、定数の削減等々につきましての悩ましい数字的な問題点がございましたので、結果的にはこのことを参酌せずに提案したということでございます。

（鈴木和夫 君） そうしますと、配当基数から見ると、中央区と北区だけを重点にピックアップするという、ほかのいろんな浪速区とかあるんですが、昼間人口だけ見ると、特に中央区と北区だけが加味しないいけないのかなと。そこらについては、一部合区もあり得るのかなというふうな形は考えるんですけども、その辺は何か論議はありましたですか、党内では。

(松室猛 君) 具体的にそこまでの議論はございません。だけど、例えば各党との話し合いの結果、任意合区を市域部で考えます場合には、当然そういったことも加味しながら議論すべきだろうなという問題提起というふうにお受けとめいただきたいと思います。

(鈴木和夫 君) そうすると、自民党さんの中身としては、各党の質疑をした上である程度の委員会の流れができれば、具体のそういうような合区なんかの論議もあり得ると、そういうふうにも考えてもいいんですかね。

(松室猛 君) あり得る、そのとおりだと思います。

(鈴木和夫 君) そういう解釈でいいわけですね。

それで、そういうふうな柔軟なお考えということであれば、私たちとしても踏み込んだ形でまた論議させてもらいたいと思います。

私たちの考え方につきましては、二十四日以降、民主さんの後でまた意見を申し述べたいと思いますけれども、私たちが昼間人口のことを考えたんですけども、昼間人口の押さえ方というのは、やはり大阪市が主力になるのかなと。大阪府議会の議員定数の論理で定数問題というよりも、むしろ大阪市の方の定数もしくは行政的なバックアップが昼間人口に対する考え方に近いのかなと。私たちもいろいろ考えたんですが、もう少し踏み込んだ形もしたいんですが、この辺がちょっと私どもについてもわからない点がありましたので、任意合区についての考え方がそうした形でお考えであれば、今後またいろんな形で論議させてもらいたいな、そういうふうにも思っております。